

令和2年度
上野法律ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和3年6月30日

学校法人上野教育学園
上野法律ビジネス専門学校
理事長 久保田 高永

令和2年度学校関係者評価報告

学校法人上野法律学園上野法律ビジネス専門学校では、本校規程に基づき、学校関係者評価委員会を令和3年6月29日に開催いたしました。以下に、その内容をご報告いたします。

今後教職員一同は、各評価委員よりのご意見等を踏まえまして、教職員一同は更なる専
教育内容の向上及び適正な学校運営の確保に努めていく所存でございます。

引き続き、一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

1. 学校関係者評価委員名簿および学内出席者

氏名	所属	役職等
土川 英司	盛岡市材木町商店街振興会青友会	会長
中野 潤一	株式会社東北銀行	夕顔瀬支店長
清水 友博	盛岡市役所（本校卒業生）	市長公室都市戦略室
吉田 里美	東海住宅株式会社（本校卒業生）	仙台支店
和田 勝弘	上野法律ビジネス専門学校	副校長
佐々木 茂	上野法律ビジネス専門学校	教務課
秋庭 裕史	上野法律ビジネス専門学校	教務課
東海林千秋	上野法律ビジネス専門学校	教務課

2. 委員会次第

- (1) 開会・委員長挨拶
- (2) 委員紹介
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等の説明
- (3) 令和2年度自己評価等の結果報告及び質疑応答
- (4) 令和2年度本校取組の報告及び質疑応答
- (5) 閉会

3. 内容

副校長和田勝弘より、開会挨拶の後、教務課佐々木茂より委員の紹介・委員会の趣旨・目的等の説明を行った後、令和2年度自己評価等の結果を、副校長和田勝弘、教務課佐々木茂より、各評価項目について報告を行った。その後、当該報告に基づいて、関係者委員の皆様と質疑応答を行い、意見提言を受けた。

(1) 教育理念・教育目標

教育理念・目的・育人人材像等は各職員に周知徹底しているとともに学生にも学生ハンドブック等を通じ説明している。また、当校のパンフレット・募集要項にて教育理念を掲載しており保護者の方にも教育理念の周知を図っている。

(2) 学校運営

定期的に理事会を開催し、事業計画・教育目標を達成するために適切な学校運営がなされている。

(3) 教育活動

昨年度はコロナ禍で各種イベントが中止になり、当初予定していた実践授業は行えなかったが、地元の商店街振興組合等と連携することにより職業実践専門課程の実践授業を行うことができた。また、例年行っているインターンシップについては学生の職業観のレベルアップがより図れるようになった。教員の研修については、今後は国際化に関する研修を行っていきたい。委員の方からコロナ禍の中で実践授業を行うことができたことに対し評価を頂くとともに、販売事業に対する学生の意識向上が図ることができたと意見を頂いた。

(4) 学修成果

昨年度はコロナ禍での就職活動で様々な制約がかかり、例年より内定取得の時期は遅くなったが100%近くの就職率を達成できた。また、資格については職業実践専門課程における実践授業により販売系の資格については年々合格率は上がってきているが、簿記等の資格についてはより合格率の向上を目指すこととする。コロナ禍により、就職先について地元志向が高まったか否か質問を受けたが、特に地元志向が高まったわけではなく、給与や企業規模等により県外企業を目指す学生は多い。公務員についても地元に残りたい希望はあるが、採用枠の関係で県外の公務員を受験することとなる。今年度のビジネス系の入学生が増えたのは地元就職を希望していることが理由の一つと言える。今後も地元企業の魅力についていかに学生に知らせるかが課題である。

(5) 学生支援

入学式と保護者会を同時に開催する予定であったが、コロナ禍により保護者会は中止となったが、来年度は開催する予定である。各種奨学金については学生に周知を図っている。また卒業生に対する転職のフォローをする機会があり、今後もそのような対応は継続していく。卒業生への支援体制については評価を上げてよいのではないかと提言を頂いた。

(6) 教育環境

法令に従い必要な施設設備の点検・修理修繕等を行っている。

(7) 学生募集

昨年度は高校への訪問活動が思うように行えず、資料発送・電話連絡・一部オンラインでの情報提供を行ったが十分とはいえなかった。一方 SNS を活用した情報発信は力を入れており、リピーターも増えてきている。今後も SNS による情報発信を強化していく。

(8) 財務

コロナ禍により留学生については入国ができず入学生は減少したが、日本人の入学生を増やすことができ、財務的には改善することができた。

(9) 法令遵守

毎年、学生・保護者からのアンケートを元に、自己評価を行い教務会等で問題提起と改善作業を行っている。自己評価についてはホームページで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

昨年度も各種ボランティアについて学生に広く告知している。また地元の商店街の市場において学生の企画による販売活動を行った。地域研究の授業において学生の保護者・関係企業等を招待して研究の成果の発表を発表した。委員の方から地元商店街として今後も協力していきたいとのご意見を頂いた。また、学生には販売活動においてなぜ売れなかったのかなど PDCA による振り返りを行い、ぜひ次年度につなげて欲しい旨の意見を頂いた。

(11) 国際交流

昨年度は日本語学科の留学生・日本人学生合同のスポーツ大会を行い、今年度も行う予定である。また、日本語学科の留学生と日本人学生との文化交流を主体として授業を行った。今年度は留学生と日本人学生とを同じクラスにし、ホームルームや実践授業を合同で行っている。将来的に合同で国際交流できる機会を増やしたい。

4. まとめ

最後に昨年度の職業実践専門課程における実践授業及び公務員及び民間企業の就職先を公表した。実践授業により地元企業との連携は強化され、就職にも結び付くことができた。さらに公務員系に関しては企業様との連携は難しいが定期的に学生と面談しより良い進路に導いている。

全体を通じて、質の高い教育が実践されているとの評価をいただいた。高い就職率・高い公務員合格率や実践授業、社会・地域貢献だけではなく、本校の教育理念に基づく全人格的教育に共感をいただいたと考えている。

今後も岩手の専門学校として地元役に役立つ視点、国際交流の視点等を大切に、今後も地域社会や企業・団体等との連携を図りながら、変化する社会に対応できる人物の育成を行う専門学校として発展ができるように、教職員全員で協力して努めていくことを確認して閉会した。

以上